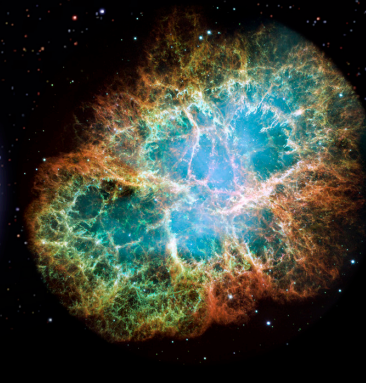
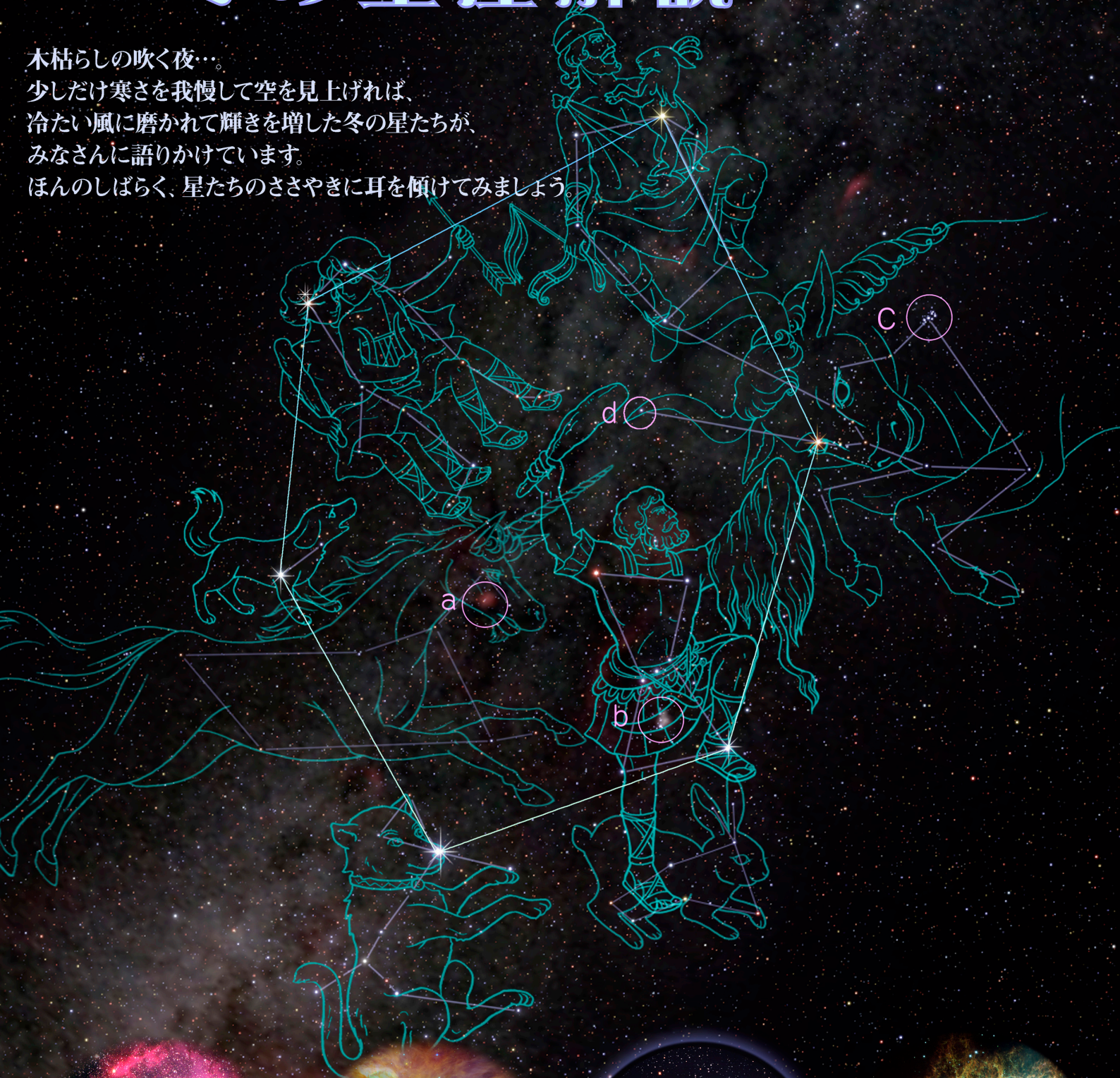


ふゆ

せいざかいせつ

冬の星座解説

木枯らしの吹く夜…。
 少しだけ寒さを我慢して空を見上げれば、
 冷たい風に磨かれて輝きを増した冬の星たちが、
 みなさんに語りかけています。
 ほんのしばらく、星たちのささやきに耳を傾けてみましょう。



a NGC2237・バラ星雲

b M42・オリオン大星雲

c M45・プレアデス星団

d M1・かに星雲

ふゆ 冬の星座解説

(約16分)

木枯らしの吹く夜…。少しだけ寒さを我慢して空を見上げれば、冷たい風に磨かれて輝きを増した冬の星たちが、語りかけてくれます。ほんのしばらく、星たちのささやきに耳を傾けてみましょう。

オリオンの三ツ星から ~ベテルギウス、リゲル~ 冬の星空で、まず目に飛び込んでくるのは、同じくらいの明るさの星三つとそれを囲む四つの星が作る、リボンが縦になったような星の並び。これが、冬の星座で一番有名なオリオン座を見つける目印です。オリオンは、ギリシャの狩人。左上に輝くオレンジ色の星は、一等星の「ベテルギウス」。「巨人の脇の下」という意味の名前の星。右下の青白く輝く星は、一等星の「リゲル」。「巨人の左足」という意味の名前の星です。



おおいぬ座 ~シリウス~ オリオンのベルトにあたる三つ星にご注目。そのまま左下の方向に視線を移すと…とっても明るい星に行き当たります。これは、一等星の「シリウス」。おおいぬ座の口元に輝く星です。まるで、シリウスをくわえてお手、をしているような格好ですね？シリウスとは「やきこがすもの」という意味のギリシャ語、「セイリオス」から来た言葉です。



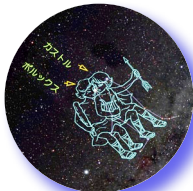
こいぬ座 ~プロキオン~ オリオン座のベテルギウスとおおいぬ座のシリウス、そしてもう一つ星を使って正三角形を作ってみましょう。これが、こいぬ座の目印、一等星のプロキオン。この明るい星三つで作った正三角形は、「冬の大三角」と呼ばれています。



おうし座 ~アルデバラン~ オリオン座の三つ星を、右上の方にのばしてみると、オレンジ色に輝く星に行き当たりました。これは、一等星の「アルデバラン」。ここからVの字を作る星の並びは、大きな角のある動物の顔になります。おうし座です。オリオン座と併せてみると、まるで闘牛のワンシーンのようですね。



ぎよしゃ座 ~カペラ~ 頭の上、高いところにひときわ輝く星があります。これは、一等星の「カペラ」。一等星の中では、北の方にあるので、比較的長い間、見ることが出来る星です。「カペラ」の意味は「小さな雌山羊」。ここには、子ヤギを抱いた優しいおじいさんの姿のぎよしゃ座があります。



ふたご座 ~カストル、ポルクス~ ぎよしゃ座の東、るい方が、弟で一等星の「ポルクス」、少し暗めの星が、いえ、兄は普通の人間で、弟は、神様の血を引いていたので、

同じくらいの明るさの星が二つ並んでいます。ほんの少し明お兄さんの「カストル」。ふたご座です。神話では、双子とは少し差がついちゃった、ということのようですね。

冬のマイナーな星座たち ~いっかくじゅう座、うさぎ座~ 「冬の大三角」、この三角形の真ん中に、幻の動物、ユニコーンの星座「いっかくじゅう座」があります。もともとユニコーンは、清純な乙女の前にはその姿を現さない、と伝えられていますから、みつけにくいのも当然かもしれません。また、オリオン座の足下を見てみると、明るい星ではないけれど、二列になった星の並びが、暗い空では割合によく目立ちます。オリオンの捕まえた獲物、といわれる「うさぎ座」があります。二千年以上前、星空を歌ったアラトスの詩の中にもちゃんと登場しているくらい、古い星座です。

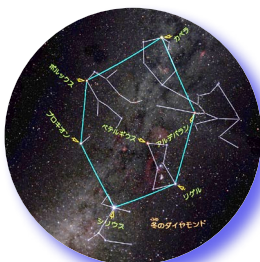


冬の美しい天体たち ~M42 オリオン大星雲、バラ星雲、プレアデス星団、M1 カニ星雲~ 「M42 オリオン大星雲」は、まるで鳥が大きく羽を広げたような姿の散光星雲。オリオン座の辺りに広がる大きな水素ガスの雲の一部分。ガスの中で生まれたばかりの星の光のエネルギーを受けて、こんな風に輝いています。同じように、星の生まれる現場として有名なのが、いっかくじゅう座の「バラ星雲」。生まれたばかりの若い星たちの姿が見られるのが、おうし座の「プレアデス星団」。肉眼では、6、7個の星の集まりが、写真では百個以上もの星の集団であることがわかります。一方、おうし座では、星の一生の終わりの姿も見ることが出来ます。おうしの角の先に輝く「M1 カニ星雲」です。太陽よりもずっと重い星が、一生の終わりに大爆発をした名残の姿。今でも、毎秒1000kmを超える早さでガスが広がっています。



冬の大六角形 ~冬の一等星を結んで~

最後に、一等星をたどり直してみましょう。オリオン座のベテルギウス、左下に行き、おおいぬ座のシリウス。今度は上に行き、こいぬ座のプロキオン。さらに上にたどって、ふたご座のポルクス。次は、もっとも北のぎよしゃ座のカペラ。少し下がって、おうし座のアルデバラン。最後にオリオン座にもどって、リゲル。ほら、ベテルギウスを中心に大きな六角形が描けました。これは、「冬のダイヤモンド」です。



天体写真：NASA, ESA, T. Megeath (University of Toledo) and M. Robberto (STScI)/NASA, ESA, J. Hester and A. Loll (Arizona State University)/N.A.Sharp /NOAO/AURA/NSF/久保田 宏 語り：梨羽侑里 脚本：高島規子 CG：NOBO 星座・神話イラスト：塚田洋子 編集：福留政彦